



NetApp Consoleのリリースノート Release Notes

NetApp
February 13, 2026

This PDF was generated from <https://docs.netapp.com/ja-jp/console-relnotes/index.html> on February 13, 2026. Always check docs.netapp.com for the latest.

目次

NetApp Consoleのリリースノート	1
NetApp Consoleの最近の変更	2
廃止されたサービス	2
エッジキャッシュ	2
Kubernetes	2
移行レポート	2
運用の回復力	2
修正策	2
2026年2月12日	2
Cloud Volumes ONTAP	2
Azure での Ebsdv5 および E104ids_v5 VM のサポート	2
2026年2月9日	3
コンソールのセットアップと管理	3
バックアップとリカバリ	3
データ分類	4
Cloud Volumes ONTAP	5
ONTAP向け Amazon FSX	6
2026年2月4日	6
デジタルアドバイザー	6
2026年2月2日	6
Keystone	6
2026年1月19日	7
バックアップとリカバリ	7
ランサムウェア耐性	8
2026年1月14日	8
データ分類	8
2026年1月12日	9
コンソールのセットアップと管理	9
ディザスタ リカバリ	9
ランサムウェア耐性	11
Cloud Volumes ONTAP	11
2025年12月10日	11
コンソールのセットアップと管理	11
オンプレミスのONTAPクラスタ	12
2025年12月9日	13
ディザスタ リカバリ	13
2025年12月8日	13
バックアップとリカバリ	13
データ分類	14

ランサムウェア耐性	14
Cloud Volumes ONTAP	15
Keystone	15
2025年12月1日	15
ディザスタ リカバリ	15
2025年11月27日	16
Google Cloud NetApp Volumes	16
2025年11月24日	16
Keystone	16
2025年11月17日	16
ONTAP向け Amazon FSX	16
リリースノートのインデックス	17
管理	17
ストレージ	17
サービスとしてのストレージ	17
データサービス	17
法律上の表示	19
著作権	19
商標	19
特許	19
プライバシー ポリシー	19
オープンソース	19

NetApp Consoleのリリースノート

NetApp Consoleの最近の変更

NetApp Consoleの一部である機能とデータ サービスに対する最新の変更について説明します。完全なリリース履歴については、"[リリースノート全文](#)"個々のサービスごとに。

廃止されたサービス

エッジキャッシュ

エッジ キャッシング サービスは 2024 年 8 月 7 日に削除されました。

Kubernetes

Kubernetes クラスターの検出と管理のサポートは、2024 年 8 月 7 日に削除されました。

移行レポート

移行レポート サービスは 2024 年 8 月 7 日に削除されました。

運用の回復力

運用回復力機能は 2025 年 8 月 22 日に削除されました。

修正策

修復サービスは 2024 年 4 月 22 日に削除されました。

2026年2月12日

Cloud Volumes ONTAP

Azure での Ebdsv5 および E104ids_v5 VM のサポート

Cloud Volumes ONTAP 9.18.1以降では、シングルノードおよび高可用性（HA）環境の導入とアップグレードにEbdsv5およびE104ids_v5 VMを導入できます。

Azure 仮想マシンの Eb ファミリ内の Ebdsv5 VM は、リモート ストレージのパフォーマンスを向上させるために最適化されています。これらの VM は、リレーショナル データベース、インメモリ分析、その他の要求の厳しいビジネス クリティカル アプリケーションなど、メモリを大量に消費し、I/O 負荷の高いエンタープライズ ワークロードに使用できます。

E104ids_v5は、スケジュールされたメンテナンス期間をより適切に処理できる分離されたVMインスタンスです。E80ids_v4と比較すると、ディスク スループットとIOPSが大幅に向上し、全体的なネットワーク パフォーマンスも向上します。

["Azure でサポートされるCloud Volumes ONTAPの構成"](#)

["Azure ドキュメント：Edsv5 サイズ シリーズ"](#)

2026年2月9日

コンソールのセットアップと管理

Console エージェント 4.4.0

4.4.0 リリースでは、標準モードと制限モードの両方がサポートされています。

Console エージェントのこのリリースには、セキュリティの改善とバグ修正が含まれています。

NetApp Console管理

このリリースには以下が含まれます。

NetApp Backup and Recovery ワークロード (**Oracle** および **Microsoft SQL Server**) のロールベースアクセスのサポート

バックアップとリカバリのワークロード (Oracle と Microsoft SQL Server) をプロジェクトに関連付けることができます。プロジェクトに割り当てた後、プロジェクトのバックアップとリカバリのロールを割り当てられたユーザーはワークロードを操作できるようになります。その他のワークロードは、現時点ではロールベースのアクセスではサポートされていません。

"[Backup and Recovery ワークロードのロールベースアクセスの設定について詳しくは、こちらをご覧ください。](#)"

バックアップとリカバリ

一般提供 (GA) でサポートされる **Microsoft Hyper-V** ワークロード

Microsoft Hyper-V ワークロードサポートが NetApp Backup and Recovery で一般提供 (GA) されるようになりました。

一般提供 (GA) でサポートされる **VMware** ワークロード

VMware ワークロード サポートが、NetApp Backup and Recovery で一般提供 (GA) されました。

Kubernetes ワークロードの機能強化

この Kubernetes ワークロードのリリースでは、次の拡張機能が導入されています：

- **CR** ワークフローのサポート：NetApp Backup and Recovery の Web UI だけでなく、CR を使用して一般的な保護タスクを実行できるようになりました。
- クラスタの移行：Trident Protect で保護されている既存の Kubernetes クラスタを Backup and Recovery に追加できるようになりました。
- アラートフレームワークのサポート：特定の Kubernetes ワークロードイベントに関する E メールと UI アラートを受信できるようになりました。
- 復元タブの統合：復元メニューから Kubernetes ワークロードの復元アクションにアクセスできるようになりました。
- **3-2-1** ファンアウトバックアップアーキテクチャのサポート：Kubernetes ワークロードを保護する際に、保護ポリシーで 3-2-1 ファンアウトアーキテクチャを使用できるようになりました。

Kubernetesワークロードの保護の詳細については、"[Kubernetes ワークロードの保護の概要](#)"を参照してください。

Oracle Databaseワークロードの機能強化

このリリースの Oracle Database ワークロードでは、次の拡張機能が導入されています：

- 非ルートユーザーのサポート：非ルートユーザーがバックアップ、復元、クローン操作を実行できるようになり、セキュリティとコンプライアンスが向上しました。
- クローンのサポート：ASM ライブラリ v2 を使用するプライマリおよびセカンダリ NAS、SAN、および ASM 環境全体でクローン機能がサポートされるようになり、調整された保護ワークフローが可能になります。
- クローン分割のサポート：書き込み可能なスナップショット（クローン）を親ボリュームから分割して、ストレージを解放し、独立した操作を行うことができるようになりました。
- オブジェクトストアのバックアップとリストア：オブジェクトベースのS3互換ストレージターゲットに対して、ネイティブのバックアップおよびリストア機能がサポートされるようになりました。
- クローン ライフサイクル管理（CLM）：クローン更新操作はプライマリ ストレージでサポートされます。
- 代替ホストへのクローン作成：プライマリストレージとセカンダリストレージの両方から、データベースを別のホスト（テストまたは分析用）にクローン作成できるようになりました。
- **ONTAP**整合性グループのサポート：ONTAP整合性グループがサポートされるようになり、複数のボリュームにわたってアプリケーションの整合性のあるスナップショットが保証されます。
- Backup and Recovery で、Oracle Database ワークロードの次の保護ポリシーアーキテクチャがサポートされるようになりました：
 - 3-2-1ファンアウト
 - ディスクツーディスク
 - ディスクからオブジェクトストレージへ
 - カスケード
 - ローカルスナップショット

Oracle Databaseワークロードの保護の詳細については、"[Oracle Databaseワークロードの保護の概要](#)"を参照してください。

データ分類

バージョン1.51

この Data Classification リリースには、バグ修正と次の更新が含まれています。

Amazon FSxN for ONTAP から直接 **NetApp Console** キャンバスでデータ分類を有効化

NetApp Console キャンバスから直接 ONTAP システム用の Amazon FSxN を有効にできるようになり、FSxN システムの Data Classification をより迅速に起動できるようになりました。

Amazon FSxN for ONTAPでData Classificationを使用する方法の詳細については、"[Amazon FSxN for ONTAP ボリュームをスキャン](#)"を参照してください。

調査ディレクトリのエクスポート制限の増加

調査ダッシュボードからディレクトリに関する調査レポートをエクスポートするときに、10,000 行を含めることができるようになりました。以前の 5,000 行の制限からのこの増加は、データ ガバナンスとコンプライアンスのより大規模な調査をサポートします。

詳細については、"[データを調査する](#)"を参照してください。

コピーと移動の制限の引き上げ

ファイルをコピーまたは移動する場合、以前の制限である 50 MB から増加し、最大 250 MB のファイルを移動できるようになりました。

詳細については、"[データを調査する](#)"を参照してください。

低解像度画面の表示の改善

Data Classification では、低解像度の画面での表示パフォーマンスが向上し、ユーザー エクスペリエンスが向上しました。

Cloud Volumes ONTAP

Google Cloud Infrastructure Manager のサポート

Cloud Volumes ONTAP 9.16.1以降では、Google Cloudでの新しい導入において、"[クラウドデプロイメント マネージャー](#)" (DM) の代わりに "[Google Cloud Infrastructure Manager](#)" (IM) をサポートするようになりました。Googleは、より高度なInfrastructure Managerのために、近い将来インフラストラクチャサービスとしてのDeployment Managerを廃止する予定です。

Infrastructure Manager を使用して Cloud Volumes ONTAP を自動的に導入するか、変換ツールを実行して Deployment Manager の既存の導入を Infrastructure Manager に切り替えます。変換は 1 回限りのプロセスであり、その後、システムは自動的に Infrastructure Manager の使用を開始します。移行ツールの実行手順については "[Google Cloud Infrastructure Manager 用に既存の Cloud Volumes ONTAP デプロイメントを設定](#)"を参照してください。

Infrastructure Manager を使用する Cloud Volumes ONTAP システムでは、Google Cloud Storage バケットを使用してデータとレコードを保存し、最初のデプロイメントのゾーンにデプロイメント レコードを保存します。これらのデプロイメント レコードは、後続のデプロイメントで再利用されます。これらのバケットには追加費用が発生する可能性があります、バケットやそのコンテンツを編集または削除しないでください：

- `gs://netapp-cvo-infrastructure-manager-<project id>/dm-to-im-convert` : Cloud Volumes ONTAP Terraform ファイルを保管するため
- `<gcp project number>-<region>-blueprint-config` : Google Cloud Terraform アーティファクトを保存するためのもの

関連リンク

- "[Google CloudでCloud Volumes ONTAPを使い始める](#)"
- "[NetApp Console Agent 4.2.0 リリースノート](#)"
- "[Google Cloud Infrastructure Manager に必要な権限](#)"

ONTAP向け Amazon FSX

Cloud Volumes ONTAP と FSx for ONTAP 間でのデータレプリケーションのサポート

Cloud Volumes ONTAP システムと Amazon FSx for NetApp ONTAP ファイル システム間のデータ レプリケーションが、NetApp Console から利用できるようになりました。

["データを複製する"](#)

2026年2月4日

デジタルアドバイザー

包括的なセキュリティ監視のための新しいセキュリティレポート

Digital Advisorに、ストレージ環境全体のONTAPセキュリティリスクの統合ビューを提供するセキュリティレポートが追加されました。このレポートにより、クラスタ、SVM、ボリューム全体の設定ミス、コンプライアンスギャップ、セキュリティ問題をより迅速に検出でき、安全なストレージインフラストラクチャの維持に役立ちます。

混合パッチレベルに対する **Enhanced Upgrade Advisor** のサポート強化

アップグレードアドバイザーは、同じONTAPメジャーリリース内で異なるパッチレベルを実行しているノードがあるクラスタのアップグレードレポートを生成するようになりました。この機能強化により、クラスタがメジャーバージョン間で混在していない限り、お客様はアップグレードをシームレスに進めることができ、アップグレード計画の柔軟性が向上します。

限定サポート終了ONTAP バージョンの延長サポート

Upgrade Advisorは、9か月の猶予期間付きで限定サポートが終了したONTAPバージョンのアップグレードプランの生成をサポートするようになりました。この機能は、移行期間中に明確なガイダンスを提供することで、顧客がタイムリーな対応を取り、アップグレードの中断を回避するのに役立ちます。

2026年2月2日

Keystone

NetApp ConsoleのKeystoneダッシュボードの新しい機能強化:

毎日蓄積されるバーストデータのインタラクティブフィルタリング

*消費傾向*タブの*日数別の累積バースト*テーブルで、インタラクティブなフィルタリングがサポートされるようになりました。発生したバースト請求グラフ内の任意のバーを選択すると、その請求期間内の日数のみが表示されます。詳細については、["毎日の累積バーストデータ使用量を表示する"](#)を参照してください。

累積バーストグラフの日付範囲表示の強化

*消費傾向*タブの累積バースト課金グラフに、月と年だけでなく、2025年10月1日から2025年10月31日までなど、各課金期間の完全な日付範囲が表示されるようになりました。

拡張可能なサブスクリプション詳細ビュー

Subscriptions タブには、すべてのサブスクリプションを展開し、各サブスクリプションのパフォーマンスサービスレベル情報を同時に表示するオプションが含まれています。詳細については、"[Keystoneサブスクリプションの詳細を表示](#)"を参照してください。

新しい使用タイプ列

*サブスクリプション*タブには、プロビジョニングされた使用量、物理的な使用量、論理的使用量のいずれに基づいてサブスクリプションが課金されるかを表示する*使用状況タイプ*列が含まれています。詳細については、"[Keystoneサブスクリプションの詳細を表示](#)"を参照してください。

2026年1月19日

バックアップとリカバリ

ONTAPボリュームワークロードの機能強化

このリリースのONTAPボリューム ワークロードでは、次の拡張機能が導入されています。

複数のバケットのサポート: (プライベート プレビュー) ONTAP 9.17.1 以降では、異なるクラウド プロバイダーにまたがるシステムごとに最大 6 つのバケットを使用して、システム内のボリュームを保護できるようになりました。

["NetApp Backup and Recoveryを使用したONTAPボリュームデータのバックアップの詳細"](#)。

VMware ワークロードの機能強化

この VMware ワークロードのリリースでは、次の拡張機能が導入されています。

- VMware ワークロード サポートが、NetApp Backup and Recovery で一般提供 (GA) されました。
- ゲスト OS のファイルとフォルダーを復元できるようになりました。

["ゲストファイルとフォルダの復元の詳細"](#)。

Hyper-V ワークロードのプレビュー機能強化

このリリースの Hyper-V ワークロードでは、次の拡張機能が導入されています。

- Hyper-V VMのバックアップとスナップショットを別の場所に復元できるようになりました。この機能を使用して、異なるHyper-Vホスト上のVMバージョンを管理できます。
- NetApp Backup and Recovery では、System Center Virtual Machine Manager (SCVMM) によってプロビジョニングされ、CIFS 共有でホストされている Hyper-V 仮想マシンがサポートされるようになりました。
- 保護グループを編集できるようになりました。



このリリースでのみ、[アクション] メニューの [アップグレード] オプションを使用して、Hyper-V または Windows 用のNetAppプラグインをアップグレードすることはできません。代わりに、各 Hyper-V ホストを削除し、再度追加してプラグインを更新します。

["NetApp Backup and Recoveryを使用したHyper-V VMの復元の詳細"](#)。

KVM ワークロードのプレビュー機能強化

KVM ワークロード プレビューでは、Apache CloudStack によって管理される KVM ホストと仮想マシンが保護されるようになりました。

KVMワークロードの保護の詳細については、以下を参照してください。 ["KVM ワークロードの保護の概要"](#)。

ランサムウェア耐性

サポートされていないボリューム

ランサムウェア耐性レポートでは、概要 レポートでサポートされているボリュームとサポートされていないボリュームに関する情報が取得されるようになりました。この情報を使用して、システム内のボリュームがランサムウェア保護の対象外となる理由を診断します。

詳細については、 ["ランサムウェア耐性レポートをダウンロード"](#)。

2026年1月14日

データ分類

バージョン1.50

この Data Classification リリースには、バグ修正と次の更新が含まれています。

カスタム分類の改善

データ分類では、データのカスタム カテゴリの作成がサポートされるようになりました。ファイルをアップロードして、データ分類がデータにカテゴリ マーカーを適用するために使用する AI モデルを微調整できます。すべてのカスタム分類のインターフェースが改善されました。

詳細については、 ["カスタム分類を作成する"](#)。

カスタムの古いデータ定義

データ分類では、組織のニーズに合わせて古いデータの定義をカスタマイズできるようになりました。以前は、古いデータは 3 年前に最後に変更されたデータとして定義されていました。現在では、最後にアクセスされた日時、または最後に変更された日時に基づいて古いデータを識別できます。期間は 6 か月前から 10 年前までの範囲です。

詳細については、 ["古いデータ定義をカスタマイズする"](#)。

パフォーマンスの向上

データ分類、データ マッピング レポート、および調査ページのフィルターすべてのページの読み込み時間が短縮されました。

調査報告書の所要時間の見積もり

調査レポートをダウンロードすると、データ分類ではダウンロードが完了するまでの予想時間が表示されるようになりました。

2026年1月12日

コンソールのセットアップと管理

コンソールエージェント 4.3.0

4.3.0 リリースでは、標準モードと制限モードの両方がサポートされています。

コンソール エージェントのこのリリースには、セキュリティの改善、バグ修正、および次の機能が含まれています。

コンソールエージェントのネットワーク接続を検証する機能

接続された Console エージェントのネットワーク接続を NetApp Console から直接検証できるようになりました。この機能は、Console エージェントの接続性を検証し、問題のトラブルシューティングに役立ちます。これは、Console エージェントのメンテナンスコンソールのコマンドラインインターフェース (CLI) からネットワーク診断を実行できる既存の機能に加えて提供されます。

["NetApp Consoleから構成を実行する方法を学習します。"](#)

NetApp Console管理

このリリースには以下が含まれます。

NetApp Consoleでのフェデレーション グループに対するロールベースのアクセス

NetApp Consoleは、フェデレーション グループ (Active Directory グループなど) へのロールの割り当てをサポートしており、管理者は組織の ID プロバイダー (IdP) のグループ メンバーシップに基づいてユーザーのオンボーディングとオフボーディングを自動化できます。この機能により、管理オーバーヘッドが削減され、グループ メンバーシップの変更に応じてコンソール アクセスが即座に更新されるため、安全で一貫したアクセスが確保されます。

["組織にフェデレーション グループへのアクセスを提供する方法を学習します。"](#)

NetApp Consoleが制限モードの場合のフェデレーションのサポート

制限モードになっているNetApp Console組織に対してフェデレーションを有効にできるようになりました。これにより、ユーザーは制限モードのセキュリティ上の利点を維持しながら、企業の資格情報を使用してコンソールにログインできるようになります。

読み取り専用モード

NetApp Console組織を読み取り専用モードに設定できます。読み取り専用モードでは、ユーザーはリソースと設定を表示できますが、変更することはできません。組織管理者またはスーパー管理者は、組織に対して読み取り専用モードを有効にすることができます。読み取り専用モードが有効になっている場合、管理者ロールを持つユーザーは、必要に応じて変更を加えるために手動で権限を昇格する必要があります。

["コンソール組織で読み取り専用モードを有効にする方法を学習します。"](#)

["組織が読み取り専用モードの場合に役割を昇格させる方法を学習します。"](#)

ディザスタ リカバリ

オンプレミス環境での複数のコンソール エージェントのサポート

オンプレミスでDisaster Recovery を使用している場合は、vCenter インスタンスごとにコンソール エージェントを展開して、回復力を向上させることができます。

たとえば、2 つのサイト (サイト A とサイト B) がある場合、サイト A には、vCenter 1、ONTAPデプロイメント 1、およびONTAPデプロイメント 2 に接続されたコンソール エージェント A を配置できます。サイト B には、vCenter 2 とONTAPデプロイメント 3 および 4 に接続されたコンソール エージェント B を配置できます。

災害復旧のコンソールエージェントの詳細については、以下を参照してください。 ["コンソールエージェントを作成する"](#)。

データストアベースの保護を使用したレプリケーション プランのフェイルオーバー後に **VM** を追加する

フェイルオーバーがトリガーされると、データストアベースの保護を使用するすべてのレプリケーション プランには、データストアに追加された VM が含まれます (検出された場合)。フェイルオーバーが完了する前に、追加された VM のマッピングの詳細を提供する必要があります。

詳細については、 ["フェイルオーバーアプリケーション"](#)。

新しいメール通知

災害復旧では、次のイベントに関する電子メール通知が提供されるようになりました。

- 容量使用制限に近づいています
- レポート生成が完了しました
- 仕事の失敗
- ライセンスの有効期限または違反

Swaggerの改善

これで、Disaster Recovery 内から Swagger ドキュメントにアクセスできるようになりました。災害復旧で、設定 を選択し、次に **API** ドキュメント を選択して Swagger にリンクするか、ブラウザのシークレット/プライベート モードで次の URL にアクセスします。 ["https://snapcenter.cloudmanager.cloud.netapp.com/api/api-doc/draas"](https://snapcenter.cloudmanager.cloud.netapp.com/api/api-doc/draas)。

改善されたユーザーインターフェース

災害復旧では、警告とエラー解決が改善されました。このリリースでは、キャンセルされたジョブがユーザーインターフェイスに表示されないエラーが修正されました。キャンセルされたジョブが表示されるようになりました。同じ宛先ネットワークが複数の異なるソース ネットワークにマップされている場合にも、新しい警告が表示されます。

レプリケーション プランに **VM** フォルダ構造の保持がデフォルトとして追加されました

レプリケーションを作成すると、新しいデフォルトでは VM フォルダー構造が保持されます。リカバリ対象に元のフォルダ階層がない場合、Disaster Recovery によってそれが作成されます。このオプションを選択解除すると、元のフォルダー階層を無視できます。

詳細については、 ["レプリケーションプランを作成する"](#)。

ランサムウェア耐性

スナップショットを**ONTAP**に複製する

Ransomware Resilience では、セカンダリONTAPサイトへのスナップショットのレプリケーションの追加がサポートされるようになりました。レプリケーション ポリシーを使用する保護グループを使用すると、ワークロードごとに同じ宛先または異なる宛先にレプリケートできます。レプリケーションを含むランサムウェア保護戦略を作成することも、定義済みの戦略を使用することもできます。

詳細については、["ランサムウェア耐性でワークロードを保護する"](#)。

ランサムウェア耐性からワークロードを除外する

ランサムウェア耐性では、システム内の特定のワークロードを保護およびランサムウェア耐性ダッシュボードから除外することがサポートされるようになりました。検出後にワークロードを除外し、ランサムウェア保護を追加する場合は再度含めることができます。除外されたワークロードについては課金されません。

詳細については、["ワークロードを除外する"](#)。

アラートをレビュー中としてマークする

Ransomware Resilience では、アラートを「レビュー中」としてマークできるようになりました。「レビュー中」ラベルを使用すると、アクティブなランサムウェアの脅威をトリアージおよび管理する際に、チーム全体の明確性が向上します。

詳細については、["ランサムウェア耐性のアラートを管理する"](#)。

Cloud Volumes ONTAP

Cloud Volumes ONTAPの推奨課金オプション

Cloud Volumes ONTAPの使用量と超過分を計算するための優先課金オプションを選択できるようになりました。2025 年 6 月 25 日に Bring Your Own Licenses (BYOL)ライセンス モデルが限定的に利用可能になって以来、NetApp はNetApp Consoleの ライセンスとサブスクリプション セクションに推奨される課金方法を追加しました。請求と超過料金については、年間マーケットプレイス サブスクリプションを使用するか、既存のBYOL モデルを優先オプションとして使用できます。これにより、組織の財務戦略と使用パターンに最適な課金方法を柔軟に選択できるようになります。

["請求設定と超過料金"](#)。

2025年12月10日

コンソールのセットアップと管理

コンソールエージェント **4.2.0**

4.2.0 リリースでは、標準モードと制限モードの両方がサポートされています。

コンソール エージェントのこのリリースには、セキュリティの改善、バグ修正、および次の機能が含まれています。

Google Cloud Infrastructure Manager のサポート

NetApp、Google Cloud でエージェントをデプロイし、管理するために、Google Cloud Deployment Manager ではなく Google Cloud Infrastructure Manager (IM) を使用するようになりました。この変更は、Google が廃止する予定であるためです。 ["クラウドデプロイメントマネージャー"](#)。

- 4.2.0 以降の新しいエージェントはすべて Infrastructure Manager を使用するため、デプロイメントに使用するユーザー アカウントとサービス アカウントの両方の権限を更新する必要があります。 ["権限変更ログを表示します。"](#)
- エージェントをデプロイすると、デプロイ ファイルを保存するための Google Cloud バケットも作成されます。

コンソールエージェントの構成チェックの改善

- コンソール エージェントは、構成チェックを実行するときに、非推奨のエンドポイントをチェックするようになりました。4.0.0 以降の新しいエンドポイント リストに更新していない場合、システムが以前のエンドポイント リストにアクセスできる場合はインストールが成功します。 ["コンソール エージェントに必要なエンドポイントの詳細について説明します。"](#)
- コンソールまたはエージェントのメンテナンス コンソールからインストールされたコンソール エージェントの構成チェックを実行し、接続を確認して問題をトラブルシューティングします。 ["コンソール エージェントで構成チェックを実行する方法を学習します。"](#)

NetApp Console からエージェントソフトウェアを直接ダウンロード

エージェントを手動でインストールする必要がある場合は、NetApp サポート サイトに加えて、NetApp Console から直接エージェント ソフトウェアにアクセスできます。 ["NetApp Console からコンソール エージェント ソフトウェアを直接ダウンロードする方法を説明します。"](#)

NetApp Console 管理

このリリースには以下が含まれます。

資格情報の有効期限切れに関する通知を設定する機能

サービス アカウントとフェデレーションの資格情報の有効期限が切れた場合の通知を設定します。7日間または30日間から選択してください。コンソールに通知が表示され、適切なロールを持つユーザーに電子メールが送信されます。組織管理者はサービス アカウント通知を受け取ります。組織管理者、フェデレーション管理者、およびフェデレーション閲覧者はフェデレーション通知を受け取ります。

フェデレーションを有効にすると、ローカルログインは利用できなくなります

コンソール組織に対してフェデレーションを有効にすると、ユーザーはローカル ログインを使用できなくなり、フェデレーション ログインに送信されます。

ストレージ管理ページの使いやすさの向上

ONTAP オンプレミス システム (および FSx for ONTAP) に関する詳細情報を、ストレージ管理ページから簡単に表示および管理できるようになりました。

- **Discoverable systems** ページでは、利用可能なシステムのタブ表示から概要情報が分離されているため、検出可能なシステムに関する包括的な情報を簡単に表示できます。

オンプレミスのONTAPクラスタ

NetApp ConsoleからONTAPシステムを表示する際の使いやすさの向上 (標準モードのみ)

NetApp Consoleの システム ページでは、ボリュームとクラスタを管理する際の明確さと使いやすさが向上しました。これらの更新により、新しいONTAPバージョンの System Manager とのエクスペリエンスがより密接になり、ナビゲーションが簡素化されます。

ONTAPバージョン 9.5 以降に含まれるクラスタ容量 (コンソール標準モードのみ)

システム > 概要 ページには、ONTAP 9.5 以降を実行しているクラスタのクラスタ サイズとONTAPバージョンが表示されます。

制限モードのNetApp ConsoleまたはONTAPバージョン 9.5 以下の場合、ボリュームのプロビジョニング情報は変更されません。

オンプレミスのONTAPクラスタが 20 個を超える場合、システム ページのボリューム タブはデフォルトでグリッドビューになります。

NetApp Consoleで管理されているオンプレミスのONTAPクラスターが 20 個を超える場合、ナビゲーションを容易にするために、ボリューム タブはデフォルトでグリッド ビューになります。カードビューは無効です。

この変更は標準モードのみ、およびONTAPバージョン 9.6 以降に適用されます。

2025年12月9日

ディザスタ リカバリ

フォルダ階層の保持

デフォルトでは、ディザスタ リカバリはフェイルオーバー時に VM インベントリ階層 (フォルダー構造) を保持します。回復対象に必要なフォルダーがない場合、Disaster Recovery によってフォルダーが作成されます。

新しい親 VM フォルダを指定するか、[元のフォルダ階層を保持] オプションのチェックを外すことで、この設定を上書きできるようになりました。

詳細については、"[レプリケーションプランを作成する](#)"。

合理化されたコンソールエージェントの更新

災害復旧では、作業環境で複数のコンソール エージェントを使用するための合理化されたプロセスがサポートされるようになりました。コンソール エージェントを切り替えるには、vCenter 構成を編集し、資格情報を再検出し、新しいコンソール エージェントを使用するようにレプリケーション プランを更新する必要があります。

詳細については、"[スイッチコンソールエージェント](#)"。

2025年12月8日

バックアップとリカバリ

VMware ワークロードのプレビュー機能強化

VMware ワークロードのプレビュー リリースでは、次の拡張機能が導入されています。

- バックアップとスナップショットを別の場所に復元できるようになりました。これは、異なる VMware vCenter 展開、VMware ESXi ホスト、または VMware データストア上の VM のバージョンを管理する場合に便利です。

["NetApp Backup and Recoveryを使用したVMware VMの復元の詳細"](#)。

- 特定の VMware 仮想ディスク (VMDK イメージ) をプライマリまたはセカンダリの場所から復元できるようになり、VM データの復元をより細かく制御できるようになりました。

["NetApp Backup and Recoveryを使用したVMware仮想ディスクの復元の詳細"](#)。

データ分類

バージョン1.49

この Data Classification リリースには、バグ修正と次の更新が含まれています。

ヘルスモニタリングダッシュボードで指標とパフォーマンスを監視する

データ分類では、ヘルス モニタリング ダッシュボードが提供されるようになり、リソースのリアルタイム モニタリングと、メモリ使用量、ディスク使用量、ディスク使用率などの分析情報が提供されます。ヘルス モニタリング ダッシュボードから得られる分析情報を活用することで、展開のインフラストラクチャを確認し、ストレージとパフォーマンスを最適化するための分析情報を得ることができます。

詳細については、["データ分類の健全性を監視する"](#)。

読み込みパフォーマンスの向上

データ分類のすべてのページの読み込みパフォーマンスが向上し、より効率的なユーザー エクスペリエンスが実現しました。

ランサムウェア耐性

拡張機能のブロックはワークロードレベルで有効になります

拡張機能のブロックを有効にすると、ストレージ VM レベルではなくワークロード レベルで有効になります。

ユーザー行動アラートステータスの編集

Ransomware Resilience では、ユーザー行動アラートのステータスを編集できるようになりました。アラートを手動で解除したり解決したりできます。

詳細については、["ランサムウェア耐性のアラートを管理する"](#)。

複数のコンソールエージェントのサポート

Ransomware Resilience では、複数のコンソール エージェントを使用して同じシステムを管理することがサポートされるようになりました。

コンソールエージェントの詳細については、以下を参照してください。"[コンソールエージェントを作成する](#)"。

Cloud Volumes ONTAP

Azure の Premium SSD v2 ディスクのパフォーマンスを向上させる機能

IOPS およびスループット パラメーターを変更することで、Azure の Premium SSD v2 マネージド ディスクのパフォーマンスを向上できるようになりました。この機能を使用すると、ワークロード要件に基づいてシステムのストレージ パフォーマンスを最適化できます。

"[Azure のCloud Volumes ONTAPの Premium SSD v2 ディスク パフォーマンスを管理する](#)"。

Essentials ライセンスの超過料金の簡素化

Cloud Volumes ONTAPマーケットプレースの年間契約/プライベート オファーの場合、Essentials ライセンスの超過計算が Bring Your Own License (BYOL) パッケージと一致するようになりました。以前は、超過分は、Essentials パッケージそのものに対して、時間単位のマーケットプレース料金で請求されていました。現在、マーケットプレースの年間契約に複数の Essentials パッケージが含まれている場合、NetApp Console は、サブスクリプション内のより高額な Essentials パッケージの利用可能な容量に対して、Essentials パッケージの超過料金を請求します。これにより、Essentials パッケージの超過計算が簡素化され、BYOL ライセンスからサブスクリプション ベースのモデルへのスムーズな移行が保証されます。

"[Essentials ライセンスの超過料金の請求方法](#)"

Azure Edsv6 サイズ シリーズのサポート

Cloud Volumes ONTAP 9.17.1 以降では、新しいCloud Volumes ONTAPインスタンス用に、NetApp Console を通じて Azure Edsv6 シリーズ VM をデプロイできます。Cloud Volumes ONTAP 9.17.1 以降では、新しいデプロイメントでは第 2 世代 VM のみがサポートされます。これらの第 2 世代マシンは、Unified Extensible Firmware Interface (UEFI)、Azure Boost システム、NVMe などの最新テクノロジーと互換性があります。これらは、データベース サーバーや分析エンジンなど、高速なローカル ストレージを必要とするメモリを大量に消費するシステムやアプリケーションに最適です。

"[Azure でサポートされるCloud Volumes ONTAPの構成](#)"

Keystone

NetApp ConsoleのKeystoneダッシュボードの新しい機能強化:

累積バースト容量ラベルの名前を変更しました

ラベル **Accrued burst capacity** の名前が **Accrued burst** に変更されます。

2025年12月1日

ディザスタ リカバリ

Google Cloud NetApp Volumesを使用した Google Cloud VMware Engine のサポート

NetApp Disaster Recovery、移行、フェイルオーバー、フェイルバック、テスト操作にGoogle Cloud NetApp

Volumesを使用する Google Cloud VMware Engine をサポートするようになりました。この統合により、オンプレミス環境と Google Cloud 間でシームレスな障害復旧ワークフローが可能になります。

必ず確認してください"[前提条件](#)"そして"[制限事項](#)"Google Cloud 向け。

2025年11月27日

Google Cloud NetApp Volumes

Google Cloud Platform の認証情報の変更

お客様がより多くのGoogle Cloud NetApp Volumesシステムをセットアップして承認するにつれて、認証情報の管理方法が変わりました。

NetApp Volumes システムの認証情報は、Cloud Key Management サービスなどの Google クラウド バックエンドに保存されるようになり、新しいシステムを作成するときにサービス アカウントの偽装認証情報が使用されます。

2025年11月24日

Keystone

NetApp ConsoleのKeystoneダッシュボードの新しい機能強化:

カバレッジギャップサブスクリプションの追跡ID

モニタリング > アラート モニター の カバレッジの完了 通知ボックスで、各サブスクリプションのサブスクリプション番号の横に追跡 ID が表示されるようになりました。

2025年11月17日

ONTAP向け Amazon FSX

AWS Lambda リンクを使用する場合に利用できる System Manager

ONTAP System Manager インターフェイスを AWS Lambda リンクと組み合わせて使用すると、高度なONTAP操作を実行できます。これにより、System Manager でコンソール エージェントを使用する代わりに、コンソールから直接 FSx for ONTAPファイル システムを管理できるようになります。"[高度なONTAP操作のためのリンクの使用について学習します](#)"

リリースノートのインデックス

NetApp Consoleの機能とNetAppデータ サービスのリリース ノートの完全セットを表示します。

管理

- ["セットアップと管理"](#)
- ["アラート"](#)
- ["オートメーションカタログ"](#)
- ["デジタルアドバイザー"](#)
- ["経済効率"](#)
- ["Licenses and subscriptions"](#)
- ["ソフトウェアアップデート"](#)

ストレージ

- ["Amazon FSx for ONTAP"](#)
- ["Amazon S3 ストレージ"](#)
- ["Azure BLOB ストレージ"](#)
- ["Azure NetApp Files"](#)
- ["Cloud Volumes ONTAP"](#)
- ["NetApp ConsoleでのCloud Volumes ONTAP管理"](#)
- ["Eシリーズシステム"](#)
- ["Google Cloud NetApp Volumes"](#)
- ["Google Cloud Storage"](#)
- ["オンプレミスのONTAPクラスター"](#)
- ["StorageGRID"](#)

サービスとしてのストレージ

- ["Keystone"](#)

データサービス

- ["バックアップとリカバリ"](#)
- ["データ分類"](#)
- ["コピーと同期"](#)

- "ディザスタ リカバリ"
- "ランサムウェア耐性"
- "レプリケーション"
- "クラウド階層化"
- "ボリュームキャッシュ"
- "ワークロードファクトリー"

法律上の表示

法的通知から、著作権情報、商標、特許などを確認できます。

著作権

["https://www.netapp.com/company/legal/copyright/"](https://www.netapp.com/company/legal/copyright/)

商標

NetApp、NetAppのロゴ、NetAppの商標一覧のページに掲載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。

["https://www.netapp.com/company/legal/trademarks/"](https://www.netapp.com/company/legal/trademarks/)

特許

現在NetAppが所有する特許の一覧は以下のページから閲覧できます。

<https://www.netapp.com/pdf.html?item=/media/11887-patentspage.pdf>

プライバシー ポリシー

["https://www.netapp.com/company/legal/privacy-policy/"](https://www.netapp.com/company/legal/privacy-policy/)

オープンソース

通知ファイルには、NetAppソフトウェアで使用するサードパーティの著作権およびライセンスに関する情報が提供されます。

["NetApp Consoleに関するお知らせ"](#)

著作権に関する情報

Copyright © 2026 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S. このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および / または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータ ソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用权を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用权については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。